

1. 職名・氏名 講師・林潤2. 学位 学位 博士、専門分野 理学、授与機関 総合研究大学院大学、授与年月 1999年3月

## 3. 教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 1年生 導入ゼミ（1単位 前期15回担当）
②内容・ねらい レポートの初歩的な書き方、文章表現の仕方を学ばせる。 基本となる科学的な考え方を学ばせる。 プレゼンテーションの初歩の表現技法を学ばせる。 初歩的な科学英語の文章を学ばせる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫 導入ゼミなので、なるべく初歩的なことから基礎知識を習得させるように気をつけている。 また、なるべく知識の羅列ではなく、時事的な事柄、最新のトピックスを盛り込み興味を持ちやすい講義になるように努力している。 プレゼンテーションを実際行い、資料の作成の仕方や口頭発表のやり方を実地で訓練する。 本年度はコロナ対応でGCによる遠隔授業用資料も作製
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 3年生 植物生理学II（旧園芸植物資源学）（2単位 前期15回担当）
② 内容・ねらい 前期の植物生理学Iの継続としてエネルギー代謝、同化と異化、を担当する。 植物生理学Iで学んだことをふまえ、植物の生理に関してさらに詳細な知見を学ぶ。高等植物のエネルギー・物質代謝についての統一的な知識を学ぶことで、3年次以降の分子レベルでの学習の基礎を築く。
③ 講義・演習・実験・実習運営上の工夫 基本的に学生は予習復習しないので、授業の前半30分を資料参照可での授業内容の小テストを最初に行い、その後、解答説明を兼ねて講義にしている。 期末テストは小テストから出題することをアナウンスしているので比較的まじめに聞いている学生が多い。 本年度はコロナ対応でGCによる遠隔授業用資料も作製
① 担当科目名（単位数） 主たる配当年次等 1年生 化学実験（分担）（1単位 通年15回）7回担当 分担者：日牟教授、片野教授、伊藤教授、植松准教授、黒川講師
②内容・ねらい 大学での実験の心構え、基本的な実験マナー、レポート作成を教育する。 基本的な実験器具の操作を理解させる。 自分たちで出したデータを基にした計算問題を出題して自分の頭で考えさせる。

<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫          高校の教科書で学んだことを実際に体験できる内容とした。学生レポートの感想から概ね目的通りに授業ができていると思われる。          本年度はコロナ対応で半数ずつに実験室を分けて実験を行った。コロナ対応でGCによる遠隔授業用資料も作製</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等          3年生 分子生物学実験 (分担) (1単位 通年) 2回担当          分担者: 石川教授、篠崎准教授</p>
<p>②内容・ねらい          分子生物学分野における各種の“基本的な”実験技術の習得</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫          分子生物学Iの講義内容になるべく沿った内容で演習を行い、講義と並行して座学の知識を実験で実感させる。          本年度はコロナ対応で半数ずつに実験室を分けて実験を行った。コロナ対応でGCによる遠隔授業用資料も作製</p>
<p>① 担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等          3年生 分子生物学演習 (分担) (1単位 通年) 2回担当          分担者: 石川教授、篠崎准教授</p>
<p>②内容・ねらい          分子生物学実験における試薬、実験方法に関する知識を学ぶ。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫          実験プロトコル章末に設問を入れ、実験原理等の理解の一助にしている。設問は実験終了後に各グループごとに解答させて公開討議の場を作りすべての設問が理解できるように工夫している。</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等          3年生 インターンシップ (分担) (1単位 通年)          分担者: 風間教授、西嶋助教</p>
<p>②内容・ねらい          職場体験を通じて就職活動への知見を深める。</p>
<p>③講義・演習・実験・実習運営上の工夫          前年度インターンシップ主担当者として、アドバイスと評価に参加。</p>
<p>①担当科目名 (単位数) 主たる配当年次等          4年生 専攻演習 (2単位 通年)</p>
<p>②内容・ねらい (自由記述)          国内外の英文論文を熟読理解させて専門分野における研究の方向性、最新の知識を学ばせる。学術論文の読み方、データの捕らえ方を学ばせる。科学的な考え方を学ばせる。プレゼンテーションと質疑により知識として得たものをいかにして平易に発表するか、といった表現技法を学ばせる。</p>

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

学生には学术论文のレジュメとパワーポイントを用意させる。  
論文の図表の解釈がどのように書いてあるかを曖昧にせず説明させる。  
理解していない場合は次の授業にやり直して1つの論文をきちんと理解させる。

①担当科目名（単位数） 主たる配当年次等

4年生 卒業論文（6単位 通年）

②内容・ねらい

植物分子細胞生物学分野の研究を行い、その基礎的な知識実験を通して他人から教えてもらい、自分が実行するときはどういったことが必要になるかを実地に教授する。  
これは、学生が就職後、初めに直面する非常に大事なことなので、重要視している。何度も行い聞かせやってみせて根気強く指導する。

③講義・演習・実験・実習運営上の工夫

日頃から、学生とデータのやり取りを常に行いディスカッションする。  
実験方法の細かな注意点や実験機器類の操作上の注意点などをすぐに話し合えるようにしている。

4. 研究業績

(1)研究業績の公表 年ベース 2023R5 年 1月-12月	
①著書	【0本】
②学術論文（査読あり）	【0本】
③その他論文（査読なし）	【0本】
④学会発表等 *1. 暗所誘導老化時のメタカスパーゼの影響 日本植物学会 第87回大会（2023年9月） 加藤寛子、塩原栞、 <u>林潤</u>	【 1件】
⑤その他の公表実績	【 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績 2023R5 年 4月-3月	
(3)特許等取得 年ベース 2023R5 年 1月-12月	
(4)学会活動等 年ベース 2023R5 年 1月-12月	

5. 地域・社会貢献活動

公開講座「生物の死と老化の仕組み」、ZOOM 講義、10月8日、15日、22日、29日、20-21時（予算の関係で未開催となる）

6. 大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
学部設備更新・保守点検委員会、遺伝子組換え実験安全委員会
(3)学内行事への参加
オープンキャンパス、学生サークル顧問：オカルトサークル、県高校教員懇話会、インターンシップ学内報告会
(4)その他、自発的活動など
施設管理：生物資源学部棟 501、505、508、215、213 実験準備室の管理運営 2020 年度入学生 学年副担任